

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30  
TEL 088-821-2000  
FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)

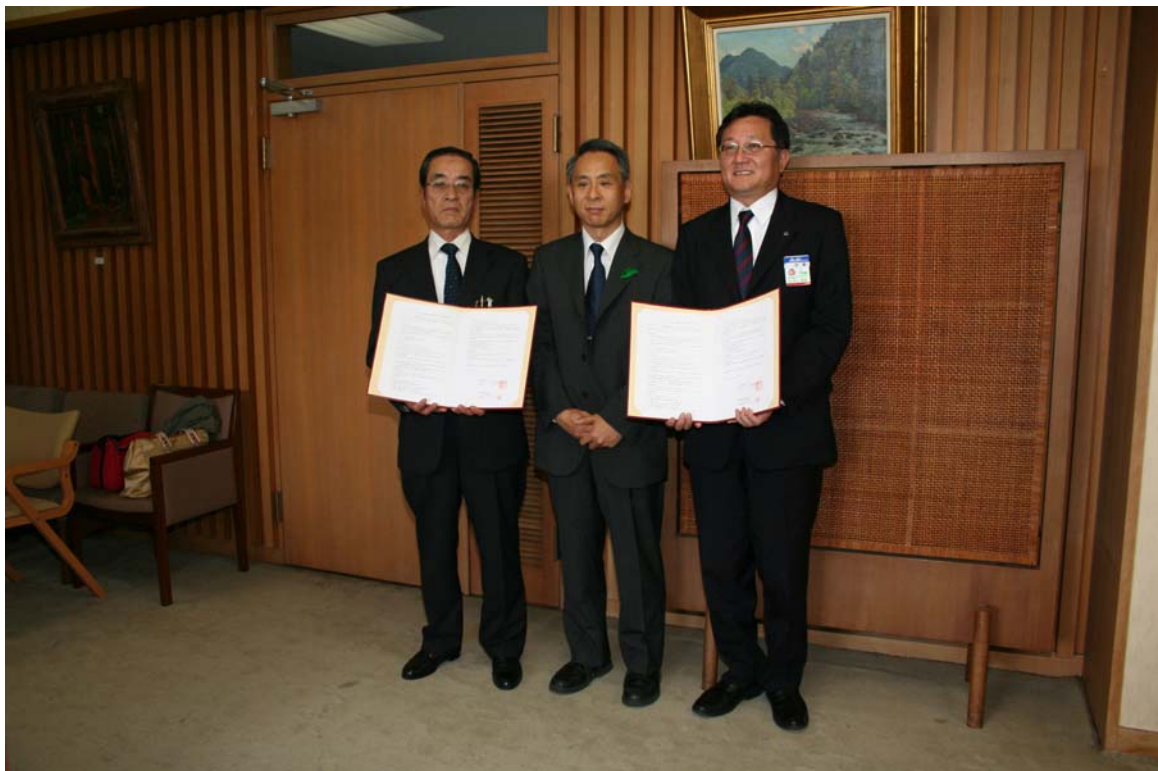


四国山の日

No.1083 2010 年 6 月号



アサヒビール（株）高知支社が工石山の環境整備や保全活動に資金や労力を提供することとなりました。



協定締結後篠田局長を囲んで

アサヒビール（株）高知支社が工石山の環境整備や保全活動に資金や労力を提供し、今後三年間にわたり支援することとなり、六月二日、四国森林管理局で協定を締結しました。

協定締結式は、アサヒビール（株）高知支社、工石山レクリエーションの森管理運営協議会を構成する高知市と工石山を楽しみながら良くする会、四国森林管理局、嶺北森林管理署の関係者により開催したところ、地元テレビ・新聞でもこの模様が報道され、今後予定されている自然保護の啓発看板の設置や清掃活動などの取組が期待されます。

〈国有林野管理課・

嶺北森林管理署〉





六月四日、四国森林管理局で、今年度第一回目の技術開発委員会を開催しました。

技術開発委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要領に基づき、森林生態学、林木育種、遺伝資源、民有林管理経営の専門家等の委員で構成されています。今回は平成二十一年度に実施した八課題の調査結果等及び二十二年度新規課題の「ニホンジカ囲いわなの研究」を加えた二十二年度の技術開発実施計画について審議をお願い意見を伺いました。

委員から、①「針広混交林に誘導するための溪畔林施業管理技術の確立」では、溪畔林が生態系に果たす役割の明確化、②「長期育成

循環施業に資する作業路作設手法の確立」では、これまでの研究成果を踏まえ民間と国有林の連携による研修の実施、③「ニホンジカ囲いわなに關する研究」では、民有林等でも利用できる開発をという意見が出されました。

今回頂いた意見等を踏まえて今後の試験地設定のあり方などを検討していくこととしています。



第1回技術開発会議



平成二十一年度を実施された治山・林道工事コンクール受賞者の表彰式が五月二十五日、高知商工会館で行われ、次の方々が受賞されました。

- ◎四国森林管理局局長賞表彰  
〔治山部門〕
- 多田工業(株)  
代表取締役 多田 裕
- 片田丸吉建設工業(株)  
代表取締役 山崎秀治
- (有)金本組  
代表取締役 金本花子
- 大旺新洋(株)  
代表取締役 四宮 隆
- (有)西野建設  
代表取締役 西野 桂
- (有)上西組  
代表取締役 上西虎夫
- 〔林道部門〕

- (株)晃立  
代表取締役 嶋崎勝昭
- 沢良木建設(株)  
代表取締役 沢良木基希

また、二月九日に林野庁において、表彰を受けた方々の披露も同時に行われました。


- ◎林野庁長官賞表彰  
〔治山部門〕
- 湯浅建設(株)  
代表取締役 湯浅雅文
- 〔監督職員〕
- 嶺北森林管理署(元安芸署)
- 農林水産技官 太田勝稔
- 〔現場代理人〕 佐竹和之
- 〔主任(監理)技術者〕 門田拓洋
- 〔林道部門〕
- 一若建設(株)  
代表取締役 中畑健右
- 〔監督職員〕
- 四万十森林管理署(元愛媛署)



治山・林道工事コンクール受賞者

農林水産技官 相田弘道  
〔現場代理人〕及び  
〔主任(監理)技術者〕 酒井朝彦

「滑床山開き」で  
森林教室  
〈愛媛森林管理署  
・ふれあいセンター〉



四月二八日、足摺宇和海国立公園内の滑床溪谷で、松野町等主催の滑床山開きの神事が行われました。

これに併せて、遠足を兼ねて参加した地元の松野南小学校全校児童一三名を対象に、森林教室を実施しました。

まず、午前中は、愛媛署森林ふれあい係長から、「しいたけの作り方」を学習しました。松野南小では三月に愛媛署の指導で「しいたけのこま打ち」を行っており、今回は、しいたけができるしくみや収穫までの原木の管理について学習し、来年の秋には収穫できることを楽しみにしていました。午後は、滑床溪谷にある樹木について学習しました。




シイタケの作り方学習の様子

葉を燃やした時に「バリバリ」と音がするから「バリバリノキ」、皮を削るとサロメチールの匂いがする「ミズメ」など、ふれあいセンター職員から、樹木の名前の由来や木の特徴などの説明を聞きながら、溪谷沿いの遊歩道を雪輪の滝まで登りました。

当日は、山開きにふさわしく初夏を思わせる陽気の中、溪谷美に触れ、地元の人自然や、森林の恵みに感謝するよい機会となったようです。

「八面山・ブナ林で  
今シーズン最初の  
森林教室」  
〈ふれあいセンター〉



五月一三日、四万十市立口屋内小学校全校児童七名を対象に森林教室を行いました。

最初に、ニホンジカの被害を受け、当センターが森林再生に取り組んでいる四万十市西土佐にある黒尊山国有林で、現状や森林再生活動等について説明しました。その後、八面山の登山口へ移動して、準備体操の後登山を開始し、歩道沿いにある樹木の名前やミヤコザサがシカに食べられたり、ヒノキ等の樹皮が剥がされ枯れている状況を見ながらブナ林に到着しました。そこで、森・川・海のつながりについて勉強し、楽しいお弁当の後、林内探検とブランコでひとときを過ごしました。

最初に、ニホンジカの被害を受け、当センターが森林再生に取り組んでいる四万十市西土佐にある黒尊山国有林で、現状や森林再生活動等について説明しました。その後、八面山の登山口へ移動して、準備体操の後登山を開始し、歩道沿いにある樹木の名前やミヤコザサがシカに食べられたり、ヒノキ等の樹皮が剥がされ枯れている状況を見ながらブナ林に到着しました。そこで、森・川・海のつながりについて勉強し、楽しいお弁当の後、林内探検とブランコでひとときを過ごしました。




森・川・海について



子供たちからは、「森・川・海のつながりについて勉強ができてよかった」「ブランコが楽しかった」等の感想を聞くことができました。ブナ林周辺の樹々は、新緑の装いを呈しており、八面山の今シーズンの森林教室をスタートしました。

校庭で樹木学習  
―待ちにまつた  
森林教室―  
〈ふれあいセンター〉



五月二七日、愛媛県松野町立松野西小学校において、四年生二九名を対象に森林教室を行いました。これは四年生の「総合的な学習の時間」に組み入れられ、年間六回行う予定の森林教室の一回目として「木について知ろう」をテーマに行ったものです。

今年度は雨天続きで延期になりました。今年度は雨天続きで延期になりました。始めに、ふれあいセンターの活動についての説明を行いました。児童たちは滑床山「通称三本杭」において、ニホンジカに食べ尽くされた「ミヤコザサ」やヒノキの樹皮が剥がれた様子や大道マツが松食い虫によって枯れた写真を見て、山

に樹木等が無くなってしま  
った様子に驚いていました。



熱心にメモをとる児童

アルゼンチンであることな  
どに驚いたなどの意見があ  
りました。

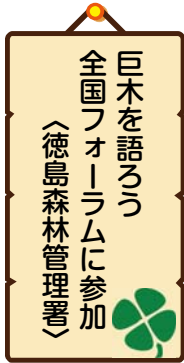


児童手製の樹木名板

次に校庭へ移動し、三班  
に分かれ、校内に植えられ  
ている樹木の名前、科名、  
特徴について学習しました。  
児童は当センターが用意し  
た紙にメモを取りながら  
「この木知っている」「この  
木おじいちゃんちにあっ  
た」などと言いながら学習  
していました。

最後に教室へもどり質問  
と感想を聞きました。今ま  
で何となく見ていた学校の  
樹木が何十種類もあること  
や、ヤマイヤシの原産国が

今回学習した樹木名は次  
回の総合学習の時間に、ヒ  
ノキ輪切りプレートへ一人  
一人が、木の名前、科名、  
自分の名前を書きそれぞれ  
のイラストを添えて取り付  
けることにしています。



五月二十九日～三十一日、徳  
島県つるぎ町で第二三回巨  
木を語ろう全国フォーラム  
が開催されました。

同フォーラムは、巨樹の  
価値を再認識するために活  
動している全国巨樹・巨木  
林の会と市町村の共催で、  
毎年、持ち回りで開催され、  
森林管理局や文化庁、環境  
省なども後援している行事  
です。

徳島森林管理署では、巨  
樹巡りツアーの中に国有林  
が組み込まれていることも  
あって、国有林野事業の普  
及啓発に絶好の機会と考え、  
同フォーラムに積極的に参  
画しました。



巨樹巡りツアーの様子

一日目は、巨樹巡りツア  
ーが四コースで実施されま  
したが、そのうちの津志嶽  
シヤクナゲ群落地は、当署  
が管理している久敷国有林  
にあります。久敷国有林は、  
高齢級の天然林ですが、シ  
ヤクナゲの古木が多いこと

で知られており、地元から  
も保護の要望があるところ  
です。当署でも、事前に下  
見や歩道の改修などを行っ  
てきましたが、当日は、全  
国各地から来訪した約二〇  
名が、片道三時間の登山道  
をたどり、ちょうど見頃の  
シヤクナゲと対面すること  
ができました。

二日目は、約六〇〇人が  
参加して自然と人との共生  
をテーマにフォーラムが開  
催され、当署から署長が来  
賓として出席しました。

フォーラムの事例報告で  
は、流域管理調整官が「津  
志嶽のシヤクナゲ群落」に

ついて、パワーポイント  
を用いて紹介を行いました。  
また、フォーラム会場に  
は、地球温暖化や森林の働  
き、林業・木材産業の重要  
性を解説したパネルを展示  
しました。

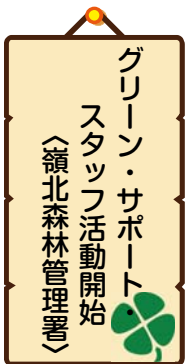
さらに、屋外ステージの  
脇で、当署職員の指導によ  
る木工教室を開催し、約三  
〇名の児童が小枝の輪切り  
を組み合わせて、オリジナル  
のクマやパンダなどの顔  
を作り、できあがった作品  
を見せ合って楽しい歓声  
を上げていました。



クマさん、上手にできたかな。

今回のフォーラムは、三日間で全国各地から延べ約一、五〇〇人が訪れ、巨樹巨木の魅力を堪能したようです。

当署では、流域管理推進アクションプログラムや森林環境教育活動推進に関する行動計画に基づいて、様々な取り組みを進めているところですが、今後とも、このような機会を捉えて、森林・林業の普及啓発や森林環境教育の推進に取り組んでいきたいと考えています。



四月二十八日、昨年度に引き続き森林保護員（愛称：グリーン・サポート・スタッフ）三名により、工石山自然休養林等の巡視・登山者の利用マナーの指導及び

普及啓発活動等を行う地域連携推進等対策事業を開始しました。

当日は、森林法や鳥獣保護等に関する法令や、植生荒廃や不法投棄を行う入込者への対応など業務に関する基本的な知識の習得を目的とした講習を行ない、その後、工石山において本年度初めての林野巡視を行うとともに災害発生等を想定した緊急連絡の訓練を実施しました。

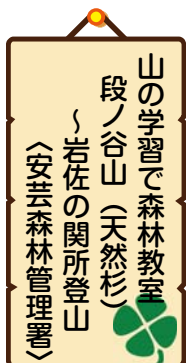


緊急訓練中（グリーン・サポート・スタッフ）

この日の工石山は天候にも恵まれ、見頃となつてい

るアケボノツツジ、トサノミツバツツジなどを楽しむ登山者がいましたが、さらに、これから初夏にかけてはシヤクナゲ、ヒメシヤラなどの花期を迎えることから、なお一層、登山を楽しまれる方が多くなつてきます。

当署では、これから一年間、グリーン・サポート・スタッフらと共にきめ細かな保全活動を行い、レクリエーションの森「工石山」をより大勢の皆様が安全に、安心して利用していただけるよう努めていきたいと考えています。たくさん皆様のご利用をお待ちいたします。



五月二十一日、佐喜浜町地域住民（先生、小学生、

父兄）約六十名を対象に、地域に残る自然や歴史を探究するために森林教室を行いました。

段の谷山登山口から出発し、すぐに山の合唱団のさえずりで歓迎を受け、参加者は大喜びでした。「表現豊かな天然杉ガイドマップ」に記載している大杉の近くで森の働きなどについて森林教室を行いました。

子供達は、大杉の大きさ、仁王杉の根元の空洞の大きさなどにビックリ、目を輝かせていました。



仁王杉の空洞に何名入ってるかな。

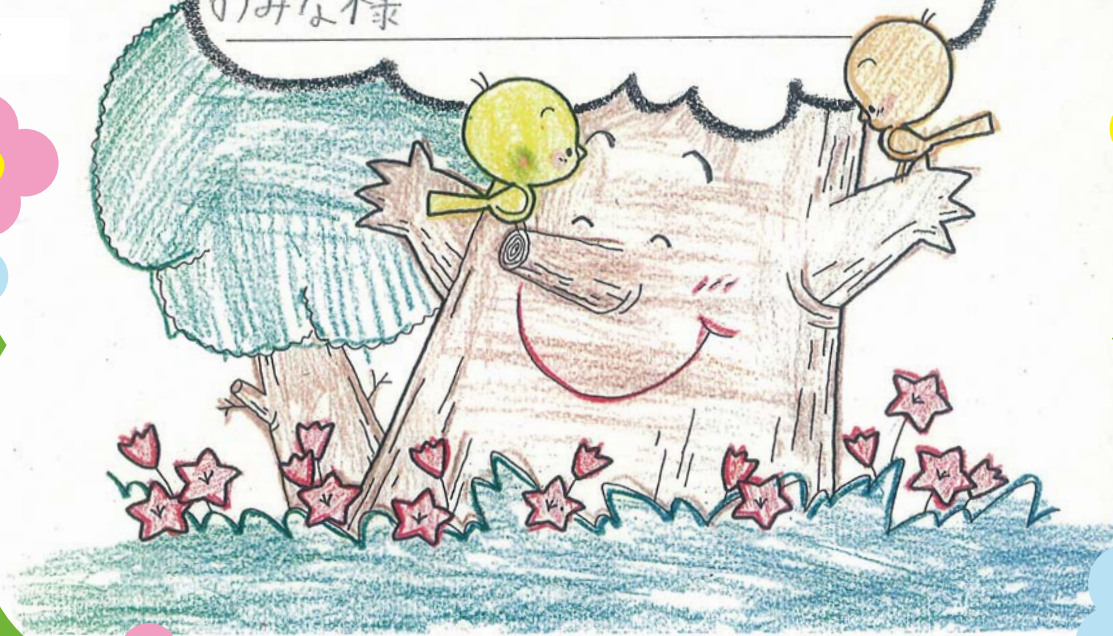
天然杉を歩道沿いに見ながら野根山街道に合流し、野根山街道の史跡については、地域の方から話を聞きました。野根山街道を歩きながら森のすばらしさを体で感じ、全員無事に帰りました。




岩佐の関所について学習の様子

今回のこのような、地域が一体となったイベント等について、当署としても積極的に参加し、森林・林業及び国有林のPRに努めて参りたいと思います。

安芸森林管理署のみなさんお元気ですか。  
ぼくは佐喜浜小学校四年の高田倫希です。  
先日は山の学習でいろいろなことを教えていただき、ありがとうございました。自然はすごいと思いました。木はつくえ、えんぴつとかに使われているのにおどろきました。また33本の杉の26本見つけて、うれしかったです。一番おどろいた杉は「矢杉」です。佐喜浜にこんな所があるなんて、初めて知りました。管理署の方の話を聞いて、山はこんなにすごいんだな、と思いました。話を聞いてとても勉強になりました。これからもお体に気をつけてお仕事をがんばってください。さようなら  
平成二十二年五月二十四日、佐喜浜小学校四年高田倫希、安芸森林管理署のみな様



千本山の  
巨大スギ観察の旅  
(安芸森林管理署)



「NPO法人自然と緑」企画で二八名の方が千本山(展望台)を登山されました。  
参加された方の体験感想文を紹介いたします。

五月二五日、二六日、「NPO法人自然と緑」企画、『渡辺弘之教授と行く高知・千本山』を実施しました。初の平日企画だったため、どれだけ参加者があるか心配でしたが、渡辺先生の人気と、「はちまき落とし」と言われる巨大スギの魅力は偉大でした。定員二十八名であつたりと満杯、そのあと、何名かの理事が涙を飲みました。私もヒヤヒヤしながら経緯を見守っていましたが、なんとか滑り込みセーフ。行ってよかったです。素晴らしいスギ群でした。

二六日、天気は晴天、さすが晴オトコで有名な、我が自然大学学長の只木良也先生にご同行いただいた

だけのことはあります。早朝から安芸森林管理署の流域管理調整官、大原国夫さんをはじめとして稲垣孝西川森林事務所森林官、川邊 亜紀さん、田中 梓さんの四人の署員の方たちに御案内いただき、ドキドキするような細い道をバスで山の奥へ、奥へと入り千本山の登り口にたどりつきました。

道中、鮮やかな新緑に目を洗われました。前々日に四五〇mmを超える大雨が降ったあとで、おそらくは普段はそれほどでもないであろうと思われる流れも、思わず声をあげずにいられないくらいのみごとな滝となつて流れ落ちており、私たちの興奮は増すばかりです。

大原さんから「みなさん、こんなことで興奮してたら血圧が上がってたいへんですよ。」と注意されるありさまでした。

登り口から吊り橋を渡った私たちを森の巨人たち「100選」選ばれた「千本山橋の大杉」が出迎えてくれます。胸高直径二・一二m、樹高五四・二mの大きさに圧倒されました。ここからは整備された木道がほどよい勾配で設置されており、直登なのに楽に登っていました。なるよう配慮されていました。なにより、大原さんの適切な小休止を兼ねた説明が楽しく、登りも苦になりませんでした。

これまで見た中で最大のサカキ、人が楽に通る抜けられるほどの穴があいた杉の巨木など、すべてに驚き目を見張りました。もちろん、首が痛くなるほど上をむきっぱなしです。残念ながら鉢巻きは落ちませんでした。試してみました。）

寡黙な巨人たちにかまれ興奮しているのどこかしらとしたような不思議な気持ちになりました。この山を守ってこられた魚梁瀬の人々、森林管理署のみなさまに拍手を送りたい、そんな思いでいっぱいだったのは、私だけではないはずです。

大原さん、他のみなさん、楽しく驚きに満ちた一日をありがとうございました。千本山のような見事な山があるかぎり、日本の森林も

まだまだ大丈夫。たいへんなお仕事ですがこれからもがんばってこの山を、杉の巨人たちを守ってください。またぜひお会いできますように。



千本山登山の様子

NPO法人自然と緑  
福田淳子

